

## 議事概要

### 議題1：「中小企業のリスク対策とBCP」

○事業継続研究所 代表 京盛 眞信氏による講演

### 議題2：「令和元年度事業の実施状況及び令和2年度主要事業について」

○事務局 資料1及び資料2を説明

## ○委員意見

(委員) やはり今、今コロナの影響は大きく、セーフティネットの件ではもう少し、期間や金利の問題、評価の基準とかそういったところも迅速に行えるような体制を県としてとっていただきたい。今生き残らないと、生かしとかなないと、生かさないと、おそらくものすごい数の県内の雇用が失われて、それこそ立ち上がれないような状況になることも考え得るのではないかと思うので、もう少し集中して政策の方に取り組んでいただければなど思う。この1か月で急激に世の中の情勢が変わり、この先全然先が見えない状況の中で、かなり手を差し伸べなければならない中小・零細企業がたくさんあると思うので、そういったところを重点的に取り組んでいただきたい。

(委員) 今年度の件数だけでは、どのくらい効果があったか、経済効果など不明確。ただ非常に立派な事業もあるので、活用されていないものは何が原因なのか生の声を聞いてほしい。

(委員) 事業達成状況で、職場体験等情報提供企業数が目標未達成になっていることについて説明を聞かせてもらったが、受け入れ企業数を増やしていくのは中々大変だと思うが、120社目指していくのは素晴らしいことだと思う。ただ、これ以外に現在、小中の子どもたちを実際受け入れている企業数はもっとあると思う。情報のミスマッチがあって、本来、もっと数があり、学校側にも情報があると思うので、いろいろ話を聞けば、数的にはもっとあると思う。それと、できれば今後のことだが、職場体験の企業と学校の間に入ってくれるコーディネーターがいないということが大きな課題となっており、実際、自社でも受け入れをするが、学校側からはなぜ受け入れをしてほしいと思っているのか、職場体験を通じて、どんなことを子どもたちに伝えてほしいのか、伝わっているのか、そのあたりの情報がない。受け入れている会社の中には、雑用の仕事だけやらせていて、子どもたちにとってはあまり勉強になっていないと言われた経験もあるので、今後、そういう中身を含めて検討いただき、それでいてしっかり学校の信頼を得られるように、参加企業数の拡大をやっていただきたい。

それと、元気戦略の令和2年度の主要事業について、IOTに関連して製造業以外にも、実はサービス業も生産性を上げるために、何らかの形でIOTの導入をしていかななくてはいけないと思う。成功事例をもっと積極的に発信していくと、サービス業も今回のコロナウイルス対策を契機として、もっと積極的な視野の転換をしていくといった考えも出てくると思う。

（委員）今日は、現在進行中である新型コロナウイルス関連対策ということで、講演いただいたところである。新型コロナウイルスがいつ収束するか、中々見えない状況であるが、収束後にほぼ半年から1年ぐらいたたないと消費は元には戻らない。それを機にテレワークをもっともっと推進していく必要がある。各方面にもぜひ考えてほしい。それ以前に文書関係、伝票関係は早めにネット化しておく必要がある。それとこれまでのサプライチェーンは中国にかなり依存していた部分があるため、サプライチェーンの再建というのにも必要。これをひとつのピンチと考えると、このピンチをいかにチャンスに変えるか、変えていくかをしっかり考えていければいいのではないかと。紙を作っているメーカーが抗菌紙を開発したとかみたいなこと。

それと昨年度の実績の評価と来年度の予算についての話があったが、来年度については、現在こういう状況で、ニュースを見るとコロナ一色という状況ですので、国との今後の調整かと思うが、おそらく今年度と同様の予算は考えにくいと思うので、その中で、コロナ中心に予算のシフトをし、近々の状況に繋いでいく必要がある。

以上